

筑波大学

【N016 筑波大学】

	筑波大学 農学分野
学部等の教育研究 組織の名称	生命環境学群（第1年次:250第3年次:10） 大学院生命環境科学研究科（M:278 D:159） 遺伝子実験センター
沿 革	昭和24（1949）年 東京教育大学農学部設置 昭和48（1973）年 筑波大学設置 昭和50（1975）年 第二学群、大学院博士課程生物科学研究科設置 昭和51（1976）年 大学院博士課程農学研究科設置 昭和52（1977）年 大学院修士課程環境科学研究科設置 昭和53（1978）年 大学院修士課程理工学研究科設置 平成5（1993）年 大学院修士課程バイオシステム研究科設置 平成12（2000）年 大学院生命環境科学研究科設置 平成19（2007）年 生命環境学群設置  昭和59（1984）年 遺伝子実験センター設置 平成22（2010）年 遺伝子実験センターが共同利用・共同研究拠点に認定
設置目的等	<p>昭和24年に、国立学校設置法により、東京高等師範学校、東京文理科大学、東京農業教育専門学校、東京体育専門学校を包括し、東京教育大学が設置された。</p> <p>昭和48年、基礎及び応用諸科学について、国内外の教育・研究機関及び社会との自由、かつ、緊密なる交流関係を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行い、もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、学術文化の進展に寄与することを目的として、筑波大学が設置された。</p> <p>農学分野の教育を担う学士課程の組織としては、昭和48年に第一学群、昭和50年に第二学群を設置した。平成19年には、これらの学群組織を全面的に改組し、農学分野の教育を担う生命環境学群（理学分野を含む）を設置した。</p> <p>生命環境学群は、問題発見・解決型能力を身に付け豊かな人間性を育くむことにより、我が国の生命環境科学分野の中心的な担い手となる人材、国際的視野に立って活躍できる未来創造型の人材を育成することを目的としている。</p> <p>大学院課程の組織としては、昭和50年以降、生物科学研究科をはじめ</p>

	<p>めとする博士課程 3 研究科、及び環境科学研究科をはじめとする修士課程 2 研究科を設置した。平成12年には、大学院重点化の趣旨から、博士課程研究科の全面的な改組を行い、生命環境科学研究科（一貫制博士課程）を設置した。その後、一貫制から区分制への移行や新たな専攻を設置する等の改組を行い、現在の状況となっている。</p> <p>生命環境科学研究科は、生命科学と環境に関する専門分野の深い知識と研究能力、研究技術をもち、一方で、生命、人間、これらを取り巻く基盤である地球、自然環境、社会環境を幅広い視点でとらえ、独創的な発想で研究課題を発掘し、課題を解決する能力を持つ研究者と教育者、高度専門職業人を養成することを目的としている。</p> <p>昭和59年に遺伝子組換え実験に関する施設、機器等の総合的な管理並びに遺伝子工学並びにその応用分野の研究及び教育を推進することを目的として、遺伝子実験センターを設置。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>筑波大学は、農業関係の研究機関が集積する筑波研究学園都市に立地する強みを生かし、食料の生産、生態環境の保全、生物資源の利用等、“いのち”を支える農学を考究し、国際社会や地域の発展に寄与することを目指し教育、研究、社会貢献に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生物資源に関するグローバルリーダーを育成するという教育目標のもとに、幅広い教養や倫理観を養い、地球規模の視野を持たせ、食料・生命・環境・資源等に関する基礎学力を授けるとともに、フィールドにおける実践的な専門知識を身に付けさせ、イノベーション力と指導力を有する高度な専門人材育成の役割を果たすとともに、独創性と複眼的な視野と高度な研究能力を有する先導的な人材育成の役割を果たす。</li> <li>○ 筑波大学国際化戦略に基づいた英語授業の実施や海外協定校との相互単位互換制度の推進、筑波研究学園都市の研究機関との連携・連係大学院方式の教育の推進、食と緑の地域連携プログラムの実施などの特色ある教育を進めてきた実績を生かし、海外協定校と協働し、グローバルに活躍できる農学系人材を育成する教育を目指して不断の改善・充実を図る。</li> <li>○ 重要園芸作物の次世代型生物資源開発と利活用に関する先導的研究、微生物・植物・動物間の相互作用や環境因子に応答する生体機能システムの解明に関する先端的学際研究、生物系産業と持続可能社会の発展に関する異分野融合型学際研究、遺伝子組換え植物研究において世界的に高い水準の実績を生かし、フードセキュリティ</li> </ul>

ー及びヒューマンセキュリティーに関わる農学諸分野の研究を推進し、世界の農学研究において先導的・革新的な役割を果たす。

- 国際農学教育プログラムの実施、林産材利用に関する産官学連携研究の推進や林業技術者養成への貢献、高大連携や科学教育による模擬授業や研究指導、遺伝子組換え植物研究に関する共同利用・共同研究及び地球規模課題に対する国際科学技術協力の実施など、地域・国際社会に貢献してきた実績を生かし、地域、国及び世界の農業、食品産業の振興等に寄与するとともに、最先端の科学教育、職業教育、国際交流を推進していく。
- 農学分野の社会的課題やモダンテクノロジーの学習ニーズに対応するため、一般市民・関連業界人を対象としたセミナー、実務者研修等の開催、中高校教員を対象としたトレーニングコースや出前講義並びに、大学院における社会人に対する早期修了プログラムの設置などを通し、更なる社会人学び直しを推進し、地域の農業・食品産業の発展に資する。